

茨城町第6次総合計画後期基本計画策定のための
町民アンケート調査結果報告書

令和4年3月

茨 城 町

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、茨城町第6次総合計画後期基本計画（令和5年度～令和9年度）の策定にあたって、まちに対する愛着や誇り、今後の定住意向をはじめ、まちの各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、町民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施した。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	18歳以上の町民
配布数	3,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和3年9月
調査地域	町内全域。ただし、分析上は地域的傾向を把握するため、以下の5地区に区分した。 ① 長岡地区 ② 川根地区 ③ 上野合地区 ④ 沼前地区 ⑤ 石崎地区
有効回収数	1,032
有効回収率	34.4%

II 調査結果

1 まちへの愛着度と定住意向などについて

(1) 茨城町の住みやすさ

- “住みやすい”が57.9%、“住みにくい”が14.5%。
- 前回アンケートと比べると、“住みやすい”は約4%低下。

「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”という人が57.9%と6割弱にのぼり、「どちらかといえば住みにくい」と「とても住みにくい」をあわせた、“住みにくい”という人は14.5%と15%程度にとどまり、町民のまちの住みやすさに関する評価は高いといえる。

ただし、前回アンケート（“住みやすい”が62.1%、“住みにくい”が13.7%）と比較すると、“住みやすい”という率が約4%低下している。

属性別で“住みやすい”という率をみると、性別では、男性が女性をやや上回り、男性の住みやすさに関する評価がやや高くなっている。年齢別では、70歳以上の高さと10・20代の低さが目立つ結果となっており、居住地区別では、長岡地区の高さと上野合地区の低さが目立っている。[図表1参照]

図表1 茨城町の住みやすさ（全体・性別・年齢・居住地区）

	評価					n	
	とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	とても住みにくい		
全体	12.3	45.6		26.2	11.2	1032	
性別	男性	15.4	45.0		26.3	9.0	487
	女性	9.6	46.2		26.2	13.1	543
年齢	10・20代	6.5	40.3		29.9	18.2	77
	30代	8.4	50.6		19.3	14.5	83
	40代	14.9	41.1		24.4	14.9	168
	50代	11.4	44.6		28.0	11.4	175
	60代	10.4	46.5		30.0	8.5	260
	70歳以上	16.0	48.1		23.5	8.6	268
居住地区	長岡地区	16.0	47.9		28.3	5.5	219
	川根地区	14.7	44.6		25.5	8.8	204
	上野合地区	8.2	43.4		26.5	17.9	196
	沼前地区	12.3	44.1		27.0	12.3	204
	石崎地区	10.1	48.3		23.2	12.1	207

(2) 茨城町に対する愛着や誇り

- 「感じている」が54.9%、「感じていない」が19.5%。
- 前回アンケートと比べると、「感じている」はほぼ同率。

「感じている」と答えた人が54.9%と半数強、「感じていない」と答えた人が19.5%と約2割で、多くの人がまちに愛着や誇りを感じている様子が見えてくる。

前回アンケート（「感じている」が53.7%、「感じていない」が17.8%）と比較すると、「感じている」が1.2%上昇し、この5年間で、まちに愛着や誇りを感じている人の割合はやや増えていることがうかがえる。

属性別で「感じている」という率をみると、性別では、男性が女性を大きく上回り、男性のまちへの愛着や誇りが大幅に強いことがうかがえる。年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にある。居住地区別では、問2の「茨城町の住みやすさ」で住みやすさに関する評価が最も高かった長岡地区で最も低いこと、同じく問2で住みやすさに関する評価が最も低かった上野合地区で2番目に高いことなどの特徴がみられ、住みやすさと愛着・誇りは必ずしも連動していないことがうかがえる。[図表2参照]

図表2 茨城町に対する愛着や誇り（全体・性別・年齢・居住地区）

		感じている	感じていない	わからない	無回答	n
		(%)				
性別	全体	54.9	19.5	24.6	1.0	1032
	男性	60.4	18.3	20.3	1.0	487
	女性	50.1	20.4	28.5	0.9	543
年齢	10・20代	48.1	13.0	37.7	0.3	77
	30代	43.4	27.7	28.9	0.0	83
	40代	51.2	20.8	26.8	0.2	168
	50代	53.7	18.9	27.4	0.0	175
	60代	55.0	19.2	25.4	0.4	260
	70歳以上	63.4	18.7	15.7	2.2	268
	居住地区	長岡地区	46.6	25.6	26.9	0.9
川根地区		62.7	14.2	21.6	1.5	204
上野合地区		57.7	19.4	21.9	0.0	196
沼前地区		54.9	19.6	25.0	0.5	204
石崎地区		54.1	17.4	27.5	1.0	207

(3) 茨城町の魅力

- 「自然環境が豊かである」が他を大きく引き離して第1位、次いで「人情味や地域の連帯感がある」、「買物の便がよい」、「生活環境施設が整っている」の順。
- 前回アンケートと比べると、ほぼ同様の結果。

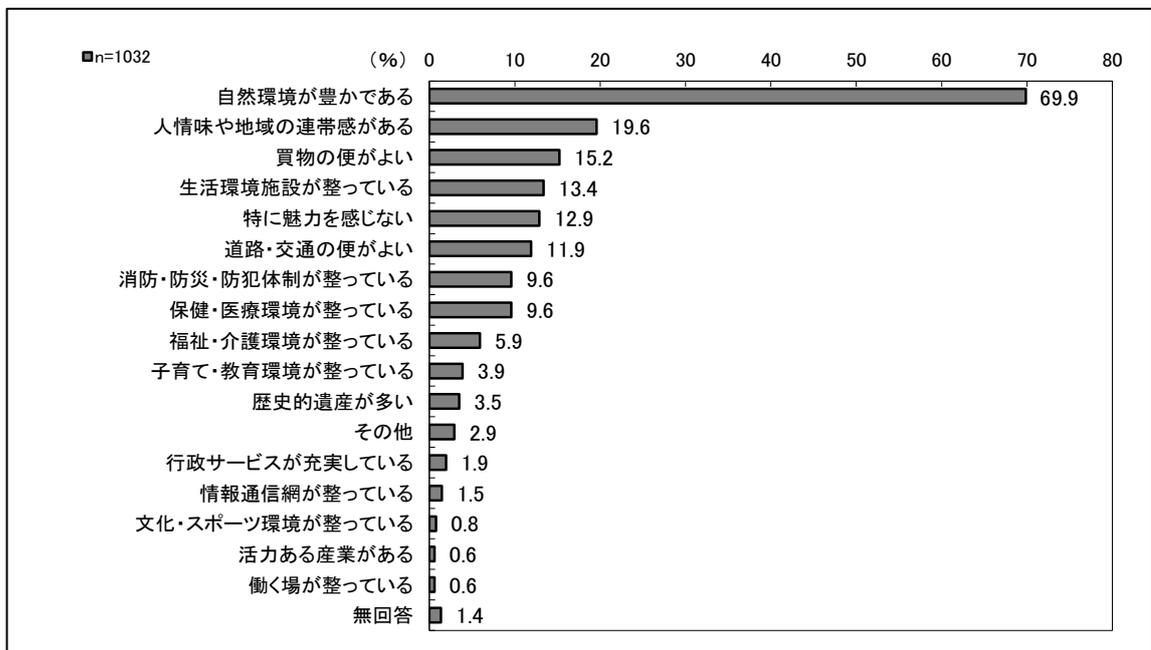
「自然環境が豊かである」が他を大きく引き離して第1位となっており、“自然の豊かさ”をまちの魅力と感じている人が特に多くなっている。

これ以外では、「人情味や地域の連帯感がある」、「買物の便がよい」、「生活環境施設が整っている」、「特に魅力を感じない」、「道路・交通の便がよい」などの順で、“人のよさ”や“生活する上での利便性”をまちの魅力と感じる人も一定数にのぼっている。

前回アンケート（「自然環境が豊かである」、「買物の便がよい」、「人情味や地域の連帯感がある」、「生活環境施設が整っている」、「道路・交通の便がよい」の順）と比較すると、順位がわずかに違うが、ほぼ同様の結果で、この5年間で、まちの魅力のとらえ方はさほど変わっていないことがうかがえる。

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「自然環境が豊かである」が第1位、「人情味や地域の連帯感がある」あるいは「買物の便がよい」が第2位となっており、大きな違いはみられない。[図表3参照]

図表3 茨城町の魅力（全体／複数回答）



(4) 今後の定住意向

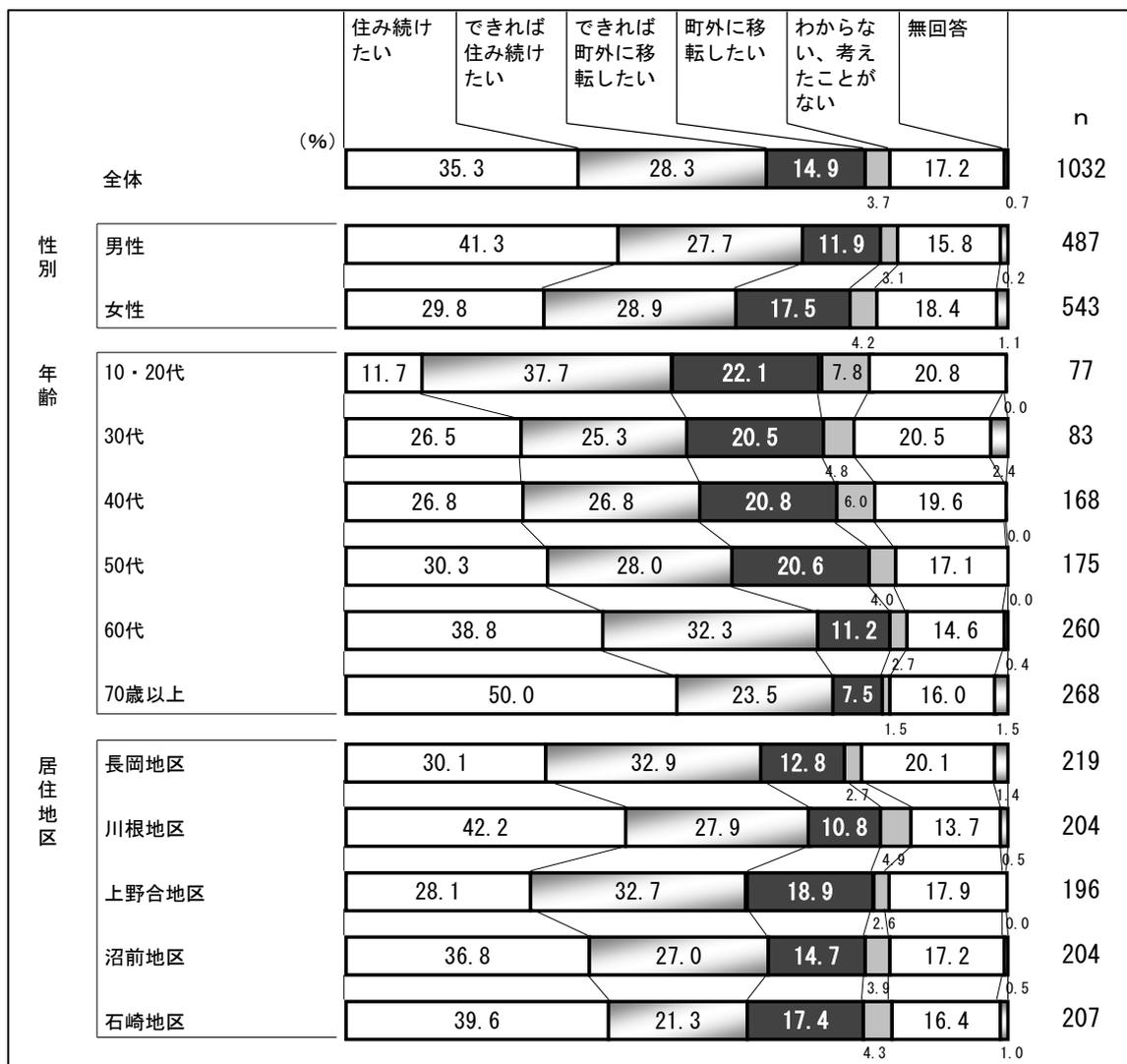
- “住み続けたい”が63.6%、“移転したい”が18.6%。
- 前回アンケートと比べると、“住み続けたい”は約6%低下。

「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」をあわせた“住み続けたい”という人が63.6%と6割強にのぼり、「できれば町外に移転したい」と「町外に移転したい」をあわせた“移転したい”という人は18.6%と2割に満たず、町民の定住意向は強いといえる。

ただし、前回アンケート（“住み続けたい”が69.4%、“移転したい”が14.9%）と比較すると、“住み続けたい”という率が約6%低下しており、この5年間で、町民の定住意向はやや弱まっていることがうかがえる。

属性別で“住み続けたい”という率をみると、性別では、男性が女性を大きく上回り、男性の定住意向が大幅に強いことがうかがえる。年齢別では、年齢層が上がるにつれて上昇していく傾向にある。居住地区別では、問3の「茨城町に対する愛着や誇り」で愛着・誇りが最も強かった川根地区で目立って高くなっている。[図表4参照]

図表4 今後の定住意向（全体・性別・年齢・居住地区）



(5) 移転したい理由

問5 付問 移転したい理由はなんですか。
(問5で“移転したい”と回答した人のみ)【複数回答】

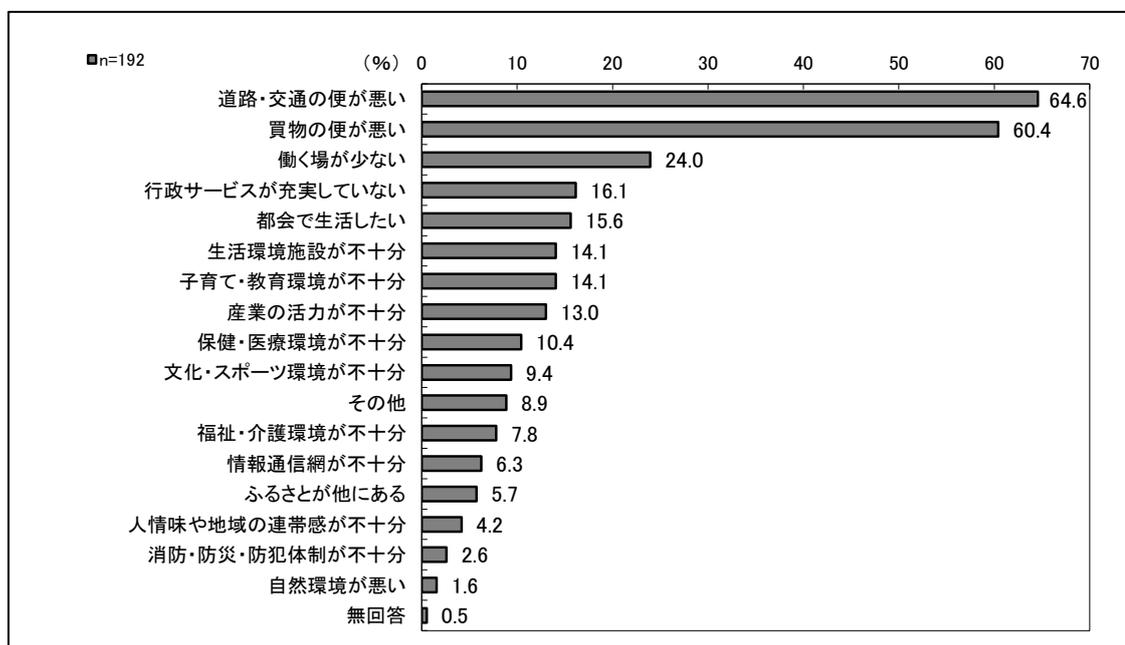
- 「道路・交通の便が悪い」と「買物の便が悪い」が他を大きく引き離して第1・2位を占める。続いて「働く場が少ない」、「行政サービスが充実していない」の順。
- 前回アンケートと比べると、第1・2位は同じだが、「働く場が少ない」、「行政サービスが充実していない」と答える人がやや増加。

前問で“移転したい”と回答した人の理由は、「道路・交通の便が悪い」と「買物の便が悪い」が他を大きく引き離して第1・2位を占めており、“道路・交通や買物の不便さ”を指摘する人が特に多くなっている。

これら以外では、「働く場が少ない」、「行政サービスが充実していない」、「都会で生活したい」、「生活環境施設が不十分」・「子育て・教育環境が不十分」、「産業の活力が不十分」などの順となっている。

前回アンケート（「道路・交通の便が悪い」、「買物の便が悪い」、「生活環境施設が不十分」、「働く場が少ない」、「子育て・教育環境が不十分」の順）と比較すると、前回・今回ともに第1位は「道路・交通の便が悪い」、第2位は「買物の便が悪い」で、これら2つが引き続き大きな理由となっていることがうかがえるが、これら以外をみると、前回第3位であった「生活環境施設が不十分」が第6位に、前回第5位であった「子育て・教育環境が不十分」が第7位に順位を下げているほか、前回第4位であった「働く場が少ない」が第3位に、前回第6位であった「行政サービスが充実していない」が第4位に順位を上げており、“就労の場の不足”と“行政サービスの不十分さ”を指摘する人がやや増えていることがうかがえる。[図表5参照]

図表5 移転したい理由（全体／複数回答）



2 まちの現状と今後の取り組みについて

(1) まちの各環境に関する満足度

- 満足度が最も高いのは「水道の整備状況」、次いで「消防・救急体制」、「保健サービス提供体制」の順。
- 満足度が最も低いのは「公共交通の状況」、次いで「道路の整備状況」、「観光振興の状況」の順。
- 全体的にみると、健康・福祉分野と生活環境分野、教育・文化分野の満足度が高く、産業分野と生活基盤分野（特に公共交通と道路）の満足度が低い。
- 前回アンケートと比べると、「工業振興・企業誘致の状況」、「防災体制」、「小・中学校教育環境」をはじめ、8割弱の項目の満足度が上昇。

満足度が最も高いのは「水道の整備状況」で、次いで第2位が「消防・救急体制」、第3位が「保健サービス提供体制」、続いて「ごみ処理・リサイクル等の状況」、「環境保全の状況」、「医療体制」、「し尿処理の状況」などの順となっている。

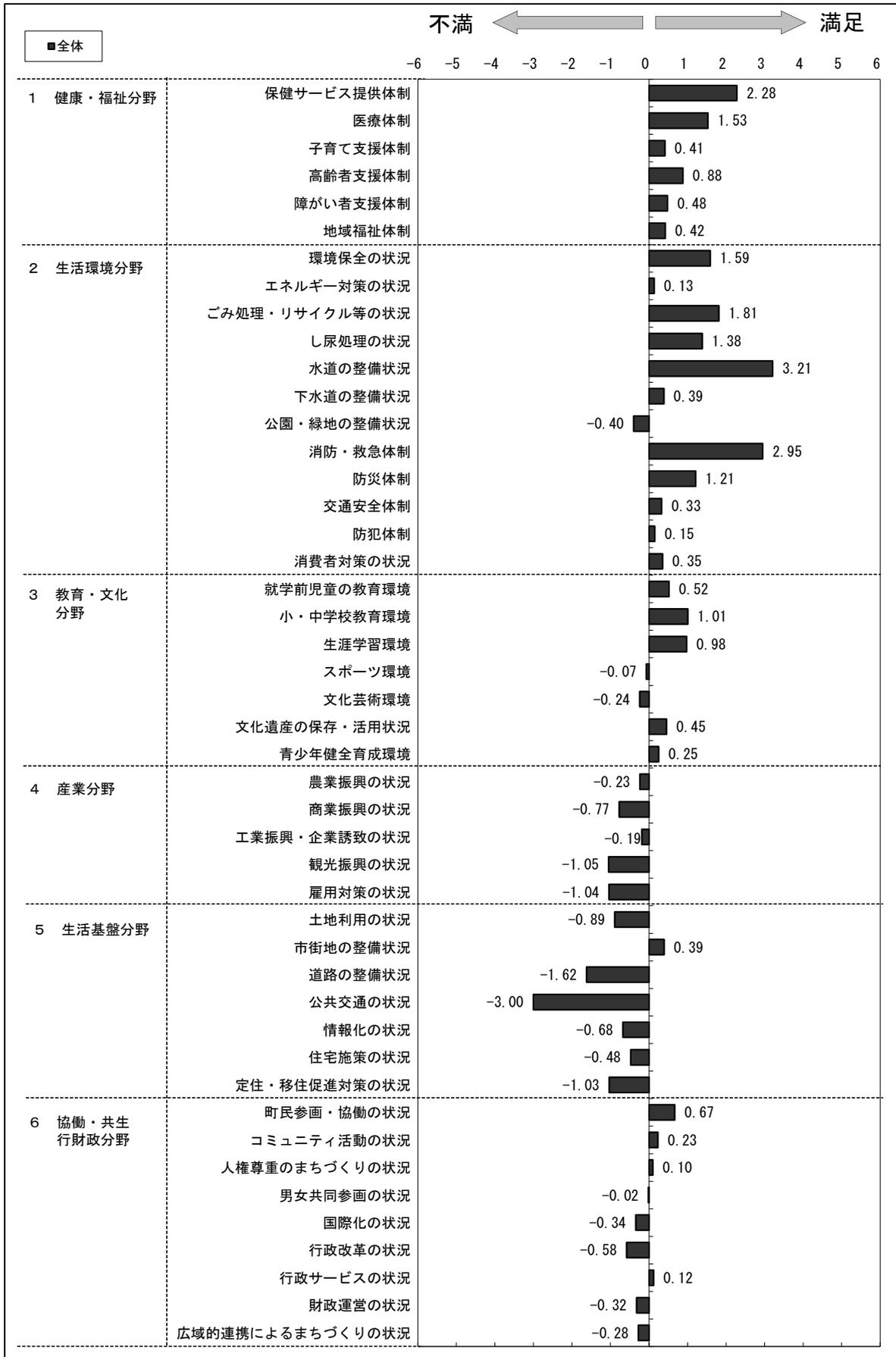
一方、満足度が最も低いのは「公共交通の状況」で、次いで第2位が「道路の整備状況」、第3位が「観光振興の状況」、続いて「雇用対策の状況」、「定住・移住促進対策の状況」、「土地利用の状況」、「商業振興の状況」などの順となっている。

全体的にみると、健康・福祉分野と生活環境分野、教育・文化分野の満足度が高く、産業分野と生活基盤分野（特に公共交通と道路）の満足度が低くなっており、設定した46項目のうち、満足度がプラス評価の項目が27項目、マイナス評価の項目が19項目となっている。

前回アンケートと比較すると、46項目のうち、満足度が上昇した項目が36項目、低下した項目が9項目、同点が1項目で、8割弱の項目の満足度が上がっている。満足度が大幅に上昇した項目をあげると、「工業振興・企業誘致の状況」、「防災体制」、「小・中学校教育環境」で、企業誘致や防災、学校教育に力を入れてきたことが評価される結果となっている。[図表6参照]

図表6 まちの各環境に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



【前回アンケートとの比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の満足度	今回の満足度	比較
1 健康・福祉分野	保健サービス提供体制	(○第2位) 2.34	(○第3位) 2.28	0.06 低下
	医療体制	1.49	1.53	0.04 上昇
	子育て支援体制	0.11	0.41	0.30 上昇
	高齢者支援体制	0.67	0.88	0.21 上昇
	障がい者支援体制	0.24	0.48	0.24 上昇
	地域福祉体制	0.45	0.42	0.03 低下
2 生活環境分野	環境保全の状況	0.92	1.59	0.67 上昇
	エネルギー対策の状況	-0.09	0.13	0.22 上昇
	ごみ処理・リサイクル等の状況	2.15	1.81	0.34 低下
	し尿処理の状況	0.96	1.38	0.42 上昇
	水道の整備状況	(○第1位) 2.62	(○第1位) 3.21	0.59 上昇
	下水道の整備状況	-0.14	0.39	0.53 上昇
	公園・緑地の整備状況	-1.24	-0.40	0.84 上昇
	消防・救急体制	(○第3位) 2.20	(○第2位) 2.95	0.75 上昇
	防災体制	-0.01	1.21	1.22 上昇
	交通安全体制	-0.09	0.33	0.42 上昇
	防犯体制	-0.43	0.15	0.58 上昇
	消費者対策の状況	-0.06	0.35	0.41 上昇
3 教育・文化分野	就学前児童の教育環境	0.07	0.52	0.45 上昇
	小・中学校教育環境	0.01	1.01	1.00 上昇
	生涯学習環境	1.07	0.98	0.09 低下
	スポーツ環境	-0.07	-0.07	同点
	文化芸術環境	-0.18	-0.24	0.06 低下
	文化遺産の保存・活用状況	0.29	0.45	0.16 上昇
	青少年健全育成環境	0.18	0.25	0.07 上昇
4 産業分野	農業振興の状況	-0.92	-0.23	0.69 上昇
	商業振興の状況	-0.84	-0.77	0.07 上昇
	工業振興・企業誘致の状況	-1.45	-0.19	1.26 上昇
	観光振興の状況	-1.44	(▲第3位) -1.05	0.39 上昇
	雇用対策の状況	(▲第3位) -1.56	-1.04	0.52 上昇
5 生活基盤分野	土地利用の状況	-1.29	-0.89	0.40 上昇
	市街地の整備状況	0.50	0.39	0.11 低下
	道路の整備状況	(▲第2位) -1.65	(▲第2位) -1.62	0.03 上昇
	公共交通の状況	(▲第1位) -2.82	(▲第1位) -3.00	0.18 低下
	情報化の状況	-0.21	-0.68	0.47 低下
	住宅施策の状況	-0.40	-0.48	0.08 低下
	定住・移住促進対策の状況	-1.11	-1.03	0.08 上昇
6 協働・共生 行財政分野	町民参画・協働の状況	0.40	0.67	0.27 上昇
	コミュニティ活動の状況	0.20	0.23	0.03 上昇
	人権尊重のまちづくりの状況	0.03	0.10	0.07 上昇
	男女共同参画の状況	-0.21	-0.02	0.19 上昇
	国際化の状況	-0.48	-0.34	0.14 上昇
	行政改革の状況	-0.65	-0.58	0.07 上昇
	行政サービスの状況	0.01	0.12	0.11 上昇
	財政運営の状況	-0.53	-0.32	0.21 上昇
広域的連携によるまちづくりの状況	-0.29	-0.28	0.01 上昇	

※ ○は上位3項目、▲は下位3項目。アミかけ部分は前回よりも満足度が低下した項目。

(2) まちの各環境に関する重要度

- 重要度が最も高いのは「医療体制」、次いで「水道の整備状況」、「消防・救急体制」、「下水道の整備状況」、「高齢者支援体制」・「道路の整備状況」の順。
- 上位10項目をみると、生活環境分野、健康・福祉分野、生活基盤分野（道路・公共交通）の項目の重要度が高い。
- 前回アンケートと比べると、「公共交通の状況」、「消費者対策の状況」・「土地利用の状況」をはじめ、約4割の項目の重要度が上昇。

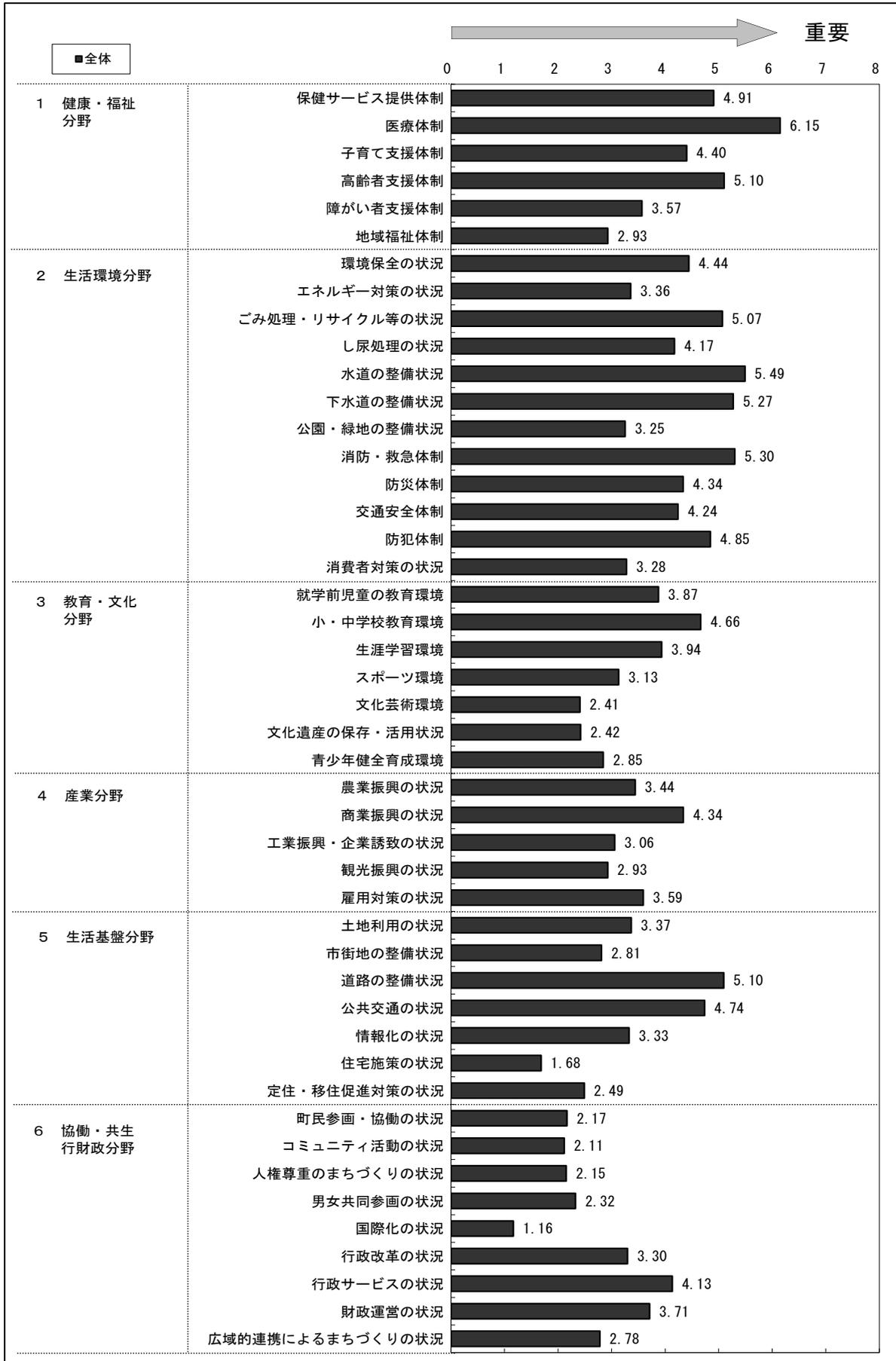
重要度が最も高いのは「医療体制」で、次いで第2位が「水道の整備状況」、第3位が「消防・救急体制」、続いて「下水道の整備状況」、「高齢者支援体制」・「道路の整備状況」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」、「保健サービス提供体制」、「防犯体制」、「公共交通の状況」などの順となっている。

これら上位10項目をみると、生活環境分野の項目が5項目、健康・福祉分野の項目が3項目、生活基盤分野の項目（道路・公共交通）が2項目となっており、“快適・安全・安心な住環境の整備”と“保健・医療・福祉の充実”、そして“道路・公共交通の充実”が重視されていることがうかがえる。

前回アンケートと比較すると、46項目のうち、重要度が上昇した項目が18項目、低下した項目が26項目、同点が2項目で、約4割の項目の重要度が上がっています。重要度が大幅に上昇した項目をあげると、「公共交通の状況」、「消費者対策の状況」・「土地利用の状況」となっている。[図表7参照]

図表7 まちの各環境に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



【前回アンケートとの比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の重要度	今回の重要度	比較
1 健康・福祉分野	保健サービス提供体制	5.05	4.91	0.14 低下
	医療体制	(○第1位) 6.10	(○第1位) 6.15	0.05 上昇
	子育て支援体制	4.29	4.40	0.11 上昇
	高齢者支援体制	(○第5位) 5.19	(○第5位) 5.10	0.09 低下
	障がい者支援体制	3.71	3.57	0.14 低下
	地域福祉体制	3.50	2.93	0.57 低下
2 生活環境分野	環境保全の状況	4.41	4.44	0.03 上昇
	エネルギー対策の状況	3.04	3.36	0.32 上昇
	ごみ処理・リサイクル等の状況	5.04	5.07	0.03 上昇
	し尿処理の状況	4.20	4.17	0.03 低下
	水道の整備状況	(○第2位) 5.97	(○第2位) 5.49	0.48 低下
	下水道の整備状況	(○第3位) 5.48	(○第4位) 5.27	0.21 低下
	公園・緑地の整備状況	3.35	3.25	0.10 低下
	消防・救急体制	(○第4位) 5.40	(○第3位) 5.30	0.10 低下
	防災体制	4.79	4.34	0.45 低下
	交通安全体制	4.17	4.24	0.07 上昇
	防犯体制	5.04	4.85	0.19 低下
	消費者対策の状況	2.62	3.28	0.66 上昇
3 教育・文化分野	就学前児童の教育環境	3.66	3.87	0.21 上昇
	小・中学校教育環境	4.33	4.66	0.33 上昇
	生涯学習環境	3.51	3.94	0.43 上昇
	スポーツ環境	2.90	3.13	0.23 上昇
	文化芸術環境	2.41	2.41	同点
	文化遺産の保存・活用状況	2.42	2.42	同点
	青少年健全育成環境	2.91	2.85	0.06 低下
4 産業分野	農業振興の状況	3.58	3.44	0.14 低下
	商業振興の状況	4.28	4.34	0.06 上昇
	工業振興・企業誘致の状況	3.34	3.06	0.28 低下
	観光振興の状況	3.02	2.93	0.09 低下
	雇用対策の状況	3.49	3.59	0.10 上昇
5 生活基盤分野	土地利用の状況	2.71	3.37	0.66 上昇
	市街地の整備状況	2.85	2.81	0.04 低下
	道路の整備状況	5.11	(○第5位) 5.10	0.01 低下
	公共交通の状況	4.03	4.74	0.71 上昇
	情報化の状況	3.03	3.33	0.30 上昇
	住宅施策の状況	1.70	1.68	0.02 低下
	定住・移住促進対策の状況	2.28	2.49	0.21 上昇
6 協働・共生 行財政分野	町民参画・協働の状況	2.90	2.17	0.73 低下
	コミュニティ活動の状況	2.78	2.11	0.67 低下
	人権尊重のまちづくりの状況	2.52	2.15	0.37 低下
	男女共同参画の状況	2.45	2.32	0.13 低下
	国際化の状況	1.38	1.16	0.22 低下
	行政改革の状況	4.29	3.30	0.99 低下
	行政サービスの状況	4.81	4.13	0.68 低下
	財政運営の状況	4.09	3.71	0.38 低下
広域的連携によるまちづくりの状況	2.70	2.78	0.08 上昇	

※ ○は上位5項目。アミかけ部分は前回よりも重要度が上昇した項目。

(4) 今後のまちづくりの特色

- 「健康・福祉のまち」、「快適住環境のまち」、「子育て・教育のまち」の順。
- 前回アンケートと比べると、ほぼ同様の結果。

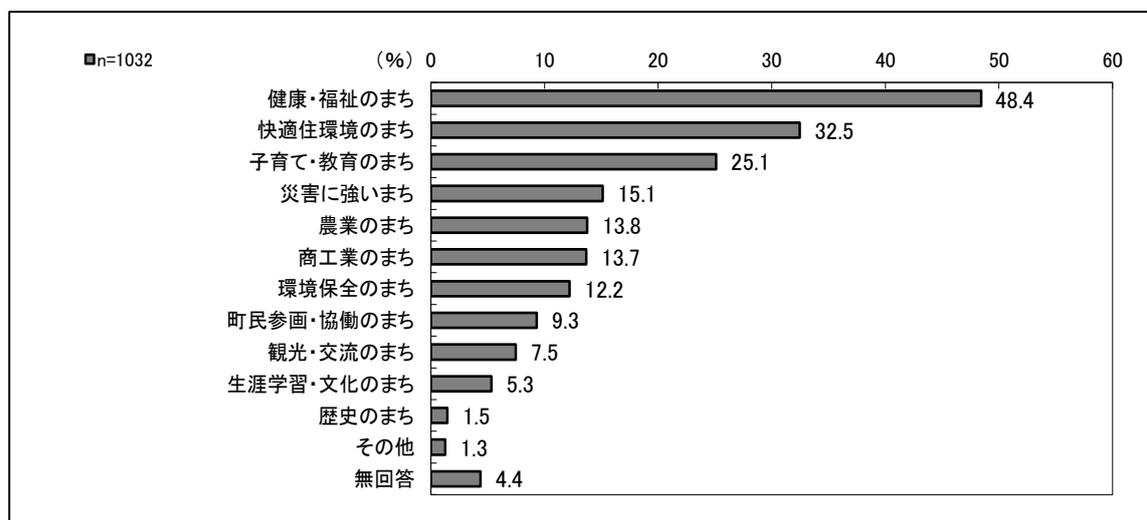
「健康・福祉のまち」が他をやや引き離して第1位、「快適住環境のまち」が第2位、「子育て・教育のまち」が第3位となっており、“保健・医療・福祉の充実”をはじめ、“快適・安全・安心な住環境の整備”や“子育て環境・教育環境の充実”が望まれていることがうかがえる。

これら以外では、「災害に強いまち」、「農業のまち」、「商工業のまち」、「環境保全のまち」などの順となっている。

前回アンケート（「健康・福祉のまち」、「快適住環境のまち」、「子育て・教育のまち」、「災害に強いまち」、「農業のまち」の順）と比較すると、ほぼ同様の結果で、「健康・福祉のまち」をはじめ、「快適住環境のまち」や「子育て・教育のまち」が引き続き強く求められていることがうかがえる。

属性別で見ると、ほとんどの属性で町全体と同様に「健康福祉のまち」が第1位、「快適住環境のまち」が第2位となっているが、30代では「子育て・教育のまち」が第1位になっているほか、10・20代や40代、沼前地区でも「子育て・教育のまち」が第2位となっており、子育て世代や沼前地区では“子育て環境・教育環境の充実”を望む人が多いことがうかがえる。[図表8参照]

図表8 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



3 町民参画・協働について

(1) 町民参画・協働のまちづくりに必要なこと

- 「広聴活動の充実」、「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」、「広報活動の充実」の順。
- 前回アンケートと比べると、ほぼ同様の結果。

「広聴活動の充実」が第1位、「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」が第2位、「広報活動の充実」が第3位で、これらは他を引き離して代表的な意見となっており、“町民の意見を聞く機会の充実”をはじめ、“公共施設管理や公共サービスへの町民・民間の参画”、“行政情報の提供”が重視されていることがうかがえる。

これら以外では、「地域活動・ボランティア活動の活性化」、「審議委員の一般公募、パブリックコメントの充実」、「NPO等の育成・支援」などの順となっている。

前回アンケート（「広聴活動の充実」、「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」、「広報活動の充実」の順）と比較すると、ほぼ同様の結果で、「広聴活動の充実」をはじめ、「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」や「広報活動の充実」が引き続き重視されていることがうかがえる。

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「広聴活動の充実」が第1位、「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」が第2位となっているが、10・20代では「広報活動の充実」、40代と60代、石崎地区では「公共施設管理等への町民及び民間の参画促進」が第1位となっており、年齢や居住地区によって若干の違いがみられた。[図表9参照]

図表9 町民参画・協働のまちづくりに必要なこと（全体／複数回答）

